

2017年1月20日（金）

アイルランド駐在のEU加盟各国大使とのダブリンでの昼食会における
アイルランド外務・通商省
チャールズ・フラナガン大臣による冒頭挨拶

大使の皆様

本日皆様を我省にお迎えできたことを大変嬉しく思います。ブレグジット（Brexit）について自由かつオープンに話し合えればと思っておりますが、その前に、私が考えるいくつかの主要な論点について述べておくのが有益ではないかと考えました。

まずはその前に、アイルランドの考え方を各国政府にしっかりと伝える上で皆様が果たしてくださっている役割について、非常に感謝していることをお伝えしておきます。私がこれまでも、また現在も、皆様方の国の閣僚と非常に前向きな議論ができているのは、皆様の分析に負うところが大きいと確信しています。

英国が今後の交渉でどのようなアプローチを取るか、現在ではより多くのことが分かっています。加盟国の多くは、かなりの期間、英国の目標を明らかにするよう求めてきたため、その点においては1月17日（火）の英国首相の演説は歓迎されました。首相は3月末までに第50条を発動することを確認しました。数ヶ月間さまざまな憶測が飛び交っていましたが、これで間もなく本格的な作業を始められるようになります。

首相が第50条を発動したところで、EU側が条文に定められた手続きを進めます。私たちは12月に実務上の取り決めに合意しており、欧州理事会が政治的役割を主導し、総務理事会と常駐代表委員会（COREPER）が定期的に関与することを確認しました。

したがって、各加盟国の見解と要望が決定力を持つようになるでしょう。そして、交渉の指針と権限は必要に応じて見直しと調整が可能です。しかし、ミシェル・バルニエ氏率いる欧州委員会のチームが中心となって効果的に交渉を進める必要があることもまた強調すべきです。また、EUと英国の合意には同議会の承認が必要であるという以外にも多くの理由から、欧州議会の役割を尊重することも非常に重要となります。これらすべての組織がともに建設的に作業を進めていく必要があります。

プロセスは重要です。しかし、姿勢と取り巻く環境はさらに重要です。私は、英国がEUと緊密かつ友好的な関係を持つことを望み、秩序だった離脱プロセスを希望するという英国首相の言葉を歓迎しています。もし英国が目標の設定と交渉の実施に建設的かつ現実的なアプローチで臨むのであれば、EU側も同様のアプローチで臨むべきです。ブレグジットがきちんとした形で進められ、EUと英国の将来の関係が緊密かつ互恵的なものであれば、双方の利益になることは明らかです。

失敗のマイナス面やリスクを重視し続けたり、将来競合関係になることを想定したりしては、成功への断固たる決意を示した場合のように効果的に友好関係を築くことはできません。

英国は今後も EU の隣人として主要な貿易相手であり、犯罪やテロとの戦いにおいて不可欠な同盟国です。同様に、EU は今後も英国にとって第一の輸出先であり、不穏で不確実な世界において英国と共通の価値観と懸念を持ち続けます。それぞれが成功し、世界に目を向け、自由民主主義を擁護することで、両者はともに恩恵を得るでしょう。

こうした広範な目標の達成は、困難かつ複雑な作業です。潜在的な落とし穴は明らかに存在します。英国の EU 離脱の条件は、透明性が高く、合意に基づくものである必要があります。これに関連して行われるのが、私たちの今後の関係の枠組みについての政治的な共通理解の議論です。

これら 2 つの議論はしっかりと結びついている必要があります。また、何らかの移行手続きまたは実施期間が必要となる可能性が非常に高いのですが、それはどのような手続きになるのでしょうか。どれくらいの期間続くのでしょうか。どのように管理され、どのような構成になるのでしょうか。こうなると、詳細な通商協定の交渉は非常に複雑となるでしょうし、そうした協定の詳細部分は常に厄介なものです。

したがって、今後は以下のものが実現します。

1. 撤退プロセス
2. 英国と EU の新たな関係
3. その中間

今後の貿易と経済上の関係についてのみ考えてしまいがちですが、対応すべき難しい問題は他にも数多くあります。漁業、民間航空、エネルギー、農業、EU のプログラムへの英国の参加の可能性などです。紛争解決、分担金、移民、人々の自由な移動の問題への対応は言うまでもありません。

第 50 条のもとで撤退の合意に達するまでの時間はあまり長くはなく、実質 2 年もありません。そして、政治的勢力やメディアの声によって交渉が難しいものとなることは想像に難くありません。このため、合意への到達はとうてい保証されてはいません。

英国内には、EU 離脱を民主的に決定したことに対し、EU が英国を罰したかかっていると考える人もいますが、これは事実ではありません。誰もが公正でバランスのとれた結果を求めているはずで、EU と英国のパートナー関係は皆の利益にかなうものです。同様に、英国が首尾良く新たなステータスを得られるかどうかは、主に今後の英国自身の決断と努力にかかっています。

しかし、特に EU 自体に大きな負担がかかっている状況では、いかなる国であれ、責務と義務なしに加盟国の権利と恩恵のみを享受できると考えるのは、理に適ったことではありません。私はゴルフが得意ではありませんが、ゴルフクラブからの退会を決めたら、翌日クラブを訪れて自由にプレーし、クラブハウスの恩恵や特権をすべて享受するわけにはいかないことは十分承知しています。

そして、EU は各国の損得の厳密な計算をはるかに超えた存在ではあるものの、EU への加盟によって他のどんな対外的な関係よりも多くの恩恵が得られなければなりません。権利と義務のバランスの原則は、私たち EU の基本です。それは、特に単一市場と関税同盟の外側にいる国にとって、交渉の核となるところでしょう。

しかし、私たちは前向きな確固たる心構えで着手しなくてはなりません。

アイルランドのアプローチについて、明確に述べさせていただきたいと思います。

わが国は、合意に達しなかった場合、他のどの国よりも多くを失い、合意に成功した場合はどの国よりも多くを得ます。しかし、最大の成果を生み出すのは美辞麗句ではなく、今後も EU の忠実で積極的な加盟国であり続け、パートナー諸国にわが国のアプローチと視点をしっかりと理解してもらうことであると確信しています。

英国と関係が深いという強みゆえ、さらには EU にコミットしているという強みゆえに、その意見が影響力を持つ加盟国。そして十分に情報を得たうえで建設的な意見を述べ、その交渉スキルと最も近い隣国である英国との良好な関係が力となる加盟国。

交渉において、アイルランドは他の国々と共通の利害を多く持ち、特に貿易や経済の分野ではそれが顕著ですが、皆様よくご存じの通り、わが国には聖金曜日協定と和平プロセス、共通旅行区域、国境と南北アイルランドの協力に関して、固有の懸念があります。これらについて再度詳しく述べる必要はないでしょう。

しかしながら、改めて述べたいのですが、こうした懸念についてパートナー諸国が大いに理解し、尊重し、EU 全体がこうした問題に満足のいく対応がなされるよう支援してくれていることを、アイルランド政府は嬉しく思い、鼓舞されています。12月にバルニエ委員長が、アイルランドの問題は交渉の優先課題になると明確に述べてくれたのは、非常に喜ばしいことでした。

また、火曜日に英国首相が再度述べた通り、英国政府が明確に約束してくれたことも大いに歓迎しています。わが国は、具体的な解決策を見出し、どのように交渉でそれらを実現するか検討するため、英国と対話し、欧州委員会と EU 理事会事務局と緊密に連携しています。もちろん、全体的な政策はより広範な EU と英国の協定によって決まってきます。これは、わが国が可能な限り最善の結果を求めるもう一つの理由でもあります。

現在の北アイルランドにおける政治的危機と、来るべき議会選挙によって、当然ながら、今後数週間での南北アイルランドの共通目標への合意は確実に難しく、何か月かかるかもしれません。この中断を踏まえると、All-Island Civic Dialogue（全アイルランドの市民対話）の継続は特に重要なものとなってきます。特定のテーマについて話し合う部門別会議と第2回総会が、2月17日に開催されます。

ストーモントで現在の政治危機が起きたことは、北アイルランドの安定が引き続き脆弱であることを示しており、ブレグジットによって聖金曜日協定が損なわれてはならないというわが国の主張を強めるものです。

私は昨日北アイルランド担当大臣とともにベルファストを訪れ、選挙期間中連絡を密にし、連携していくことで合意しました。

南北アイルランド閣僚協議会における共通の優先事項についてのこれまでの話し合いによって、ダブリンとベルファストの間にかかなりのコンセンサスが生まれつつあることが明らかになりました。激しい選挙戦によってこのコンセンサスが損なわれないよう強く願っています。アイルランド政府は、公正かつ強い決意で、可能な限り最善の成果を出すべく努力すると、北アイルランドの両党派に、保証します。北アイルランドにとって最善の結果は、わが国にとっても最善の結果なのです。

ブレグジットの交渉と並行して、EUの業務は継続して行われます。なすべきことは数多くあります。重大な問題が数多く議題にあがっています。そのなかには、単一市場の加速、貿易交渉（TTIPに進展がみられないのは残念ですが）、デジタル単一市場の創設、より効果的なテロ対策、移民の多面的な課題への対応、安全保障防衛条約内での将来の協力などがあります。

持続可能な経済成長、金融の安定、雇用の実現へのニーズは、引き続き多くの国で強く存在します。そして、言うまでもありませんが、現代は不確実で厳しい時代であり、価値観に対する私たちの関心を支持するヨーロッパの団結が以前にも増して重要になってきています。

こうした問題について前進することはそれ自体重要です。しかし、EUが具体的な変化を実現していることを国民が理解し、人民主義の政治家の誘惑的な美辞麗句は空疎なものであると悟ることもまた重要です。

そのためには、あらゆる利用可能なチャンネルを通じたよりよい意思疎通が必要であり、そうした意思疎通のなかで、EUの実績と、世界のこの危険な時代でのEUの重要性を伝えるべきです。EUがもたらした安定と確実性は大々的に報じられることはありませんが、EU市民の生活の質にとって不可欠なものです。責任のなすりあいをせずに決断を下す強力な政治的リーダーシップが欠かせません。

複雑で広く深い連合体である EU は、プロジェクトの全体像と、人々の生活に及ぼす小さな無数の改善の両方を効果的に伝えるのにしばしば苦勞します。しかし私たちは、EU 加盟の価値について精力的に伝え、理解を促さなければなりません。

全ての加盟国は、今は大げさなジェスチャーや大胆な新しい制度や条約を推し進める時ではないという点で合意しています。このため、現在の優先課題について引き続き強力に働きかけることがさらに重要となってきます。ブラチスラバのプロセスを3月にローマで完了させ、既存の約束を単純に繰り返す以上の結果を出すことが不可欠です。

私たちは、EU はこれからも重要な進展を続けるという、確実な実績に基づいた説得力のある語りかけを必要としているのです。

いかなる政治組織も国際組織も完璧ではありません。EU は必然的に複雑な組織であり、理解しがたいことも多いため、物事を単純化するさまざまな人民主義の政治家の格好のターゲットとなります。経済と移民に関する不満によって、EU は大変な重圧を受け、自信は打ち砕かれました。しかし、アイルランドは全面的に EU にコミットしています。これは言うまでもないことです。しかし最近、わが国も英国の例にならうべきであると主張する批評家がいます。

議論とは常に健全なものであり、タブーなどありません。しかし、聞こえてくる主張は、根拠が薄弱であり、誤った情報に基づいています。

英国はアイルランドにとって EU 内で唯一のパートナー国であるという指摘は、単純に間違っています。確かにわが国は英国と協力することが多かったものの、常にというわけではありません。英国の自由な考え方や交渉における影響力は、確かに失いがたいものです。英国の同僚との共同作業は、わが国にとってやりやすいものです。しかし、この44年間でアイルランドは他のすべての EU 加盟国と良好な関係を築いてきました。

皆様ご存じのとおり、皆様の国すべてにとって重要性を持つ問題は数多くあり、これらが私たちの共通の利害となっています。わが国は、こうしたパートナーシップを基盤に、これまで築いた良好な関係をさらに深めていきます。それが今後数年にわたり、私の担当省にとって、わが国のミッションネットワークにとって、さらには政府全体にとって、最優先となるでしょう。

アイルランド経済は、単一市場と関税同盟への参加に大きく依存しています。これは、国内向けの投資家と地元企業の双方について言えることです。EU に加盟していなければ、現在の成果が出ていたとは到底考えられません。現在では、アイルランドから EU のその他 26 ヶ国に向けた輸出額は、英国向けの輸出額の2倍となっています。

EU を離脱したら、必然的に再び英国への依存が高まるでしょう。そして事実上スターリング地域へ回帰することになり、これまでわが国が EU に投入してきたエネルギーはすべて失われるでしょう。それでは、過去40年間の流れと、経済的・政治的関係の多

様化に向けた大きな前進に逆行することになります。独立への道のりの100年目を迎える時期に、そのようなことは政治的に考えられません。

英国市場が引き続き非常に重要なものとなることを否定するわけではなく、当然ながら英国との前向きな関係を否定するわけでもありません。これらは継続します。だからこそ、EUと英国の緊密な関係が主要な目標なのであって、そうした関係が築かれることで、貿易の継続に障壁が生じる可能性は最小限に抑えられます。

しかしまた、わが国は自国の輸出市場を引き続き多様化することの重要性も認識しています。特にこれは自国の企業にとって重要なことです。これは長期的な戦略ですが、実現に向けた努力を強化する必要があります。これは国の省庁にとっても、大使館にとっても、私の担当省である外務・通商省を含めた政府全体にとっても優先事項です。

私は、関連する全省庁・機関と民間セクターの代表をひとつにまとめる輸出貿易協議会の議長を務めており、ブレグジットの短期的、中期的、長期的な影響を軽減することが同協議会の議題のトップにあげられています。アジア太平洋と南北アメリカについての部門横断的な新たな政府の戦略実施は、私と私の担当省にとっての主要な課題であり、現在精力的に取り組んでいます。

経済的な議論だけではありません。アイルランド島の紛争の経験ゆえに、わが国は平和の価値を特に強く理解しています。アイルランド国民がヨーロッパ史上最も成功している平和プロジェクトからの撤退を望むとは思えませんし、同様の考え方を持つ国々と協力して自らの価値観を推し進め、自らの利益を守っていく可能性を大きく損なおうとするとも思えません。EUの加盟国であることで、加盟していなければ決して得られない影響力と視点が得られるのです。

最後に、論理的に考えれば、今後EUと英国は互いにプラスになる関係を築くでしょう。実現はたやすくはなく、そこに至る道のりは険しいかもしれませんが、しかし、友好の気持ちと良識があれば、実現は可能であると私は信じています。

今後も英国はわが国の最も近い隣国であり続け、EUはわが国の政治的・経済的ホームであり続けます。

私は自分自身を誇り高いヨーロッパ人であると考えており、今回皆様とお話しできる機会を得られたことを嬉しく思っています。

ありがとうございました。